



平成 13 年 5 月 17 日

各 位

株 式 会 社 デ ジ タ ル ガ レ ー ジ
代 表 取 締 役 林 郁
(登 録 銘 柄 ・ コ ー ド 4 8 1 9)
問 合 せ 先 取 締 役 経 営 管 理 本 部 長 德 山 涼 平
T E L (0 3) 5 4 6 5 - 7 7 4 7

平成 13 年 6 月 期 通 期 業 績 予 想 及 び 連 結 通 期 業 績 予 想 の 修 正 に つ い て

平成 13 年 6 月 期 (平成 12 年 7 月 1 日 ~ 平成 13 年 6 月 30 日) の業績予想について、平成 13 年 2 月 27 日付で発表致しました当社「平成 13 年 6 月 期 中 間 決 算 短 信」の業績予想を、下記のとおり修正致します。

記

1. 平成 13 年 6 月 期 業 績 予 想 の 修 正

(1) 平成 13 年 6 月 期 (平成 12 年 7 月 1 日 ~ 平成 13 年 6 月 30 日) の業績予想の修正

(単位：百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	4,322	204	137
今 回 予 想 (B)	2,350	204	137
増 減 額 (B - A)	1,972	0	0
増 減 率	45.6%	0%	0%

(2) 修正の理由

市場環境は米国発の BtoC に対する慎重論から国内企業等の IT 関連設備投資が鈍化する傾向を見せはじめ、それにより当社 IT ソリューション関連業務の受託も減少してきております。またインターネットバナー広告の頭打ちの影響等から、マーケティングソリューション関連業務におけるインターネット広告業務受託も減少する見込みであります。

この環境に対応して当社は、中期的な売上貢献が望める IT システム構築の大型案件や利益率の高い大型コンサルティング案件に人材を重点的、戦略的に配置する方針を採り、売上高は減少するものの、利益については当初計画を達成できるものと考えております。

(3) ご参考；前期の実績 (平成 11 年 7 月 1 日 ~ 平成 12 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
通 期 (7 / 1 ~ 6 / 3 0)	2,147	64	30

2. 平成 13 年 6 月期連結業績予想の修正

(1) 連結通期（平成 12 年 7 月 1 日～平成 13 年 6 月 30 日）の連結業績予想の修正

（単位：百万円）

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	4,746	252	152
今 回 予 想 (B)	2,700	120	44
増 減 額 (B - A)	2,046	132	108
増 減 率	43.1%	52.4%	71.1%

(2) 修正の理由

売上高につきましては、主に当社単独決算の業績予想の修正に伴い修正するものであります。

経常利益及び当期純利益の修正につきましては、連結子会社である㈱ディーエス・インタラクティブ、㈱イーコマース総合研究所ならびに持分法適用会社である㈱イーコンテキスト（㈱ローソン 46%、当社 34%、ティアイエス㈱10%、三菱商事㈱10%）、㈱ギフトポート（シャディ㈱51%、当社 49%）の以下の理由によるものであります。

㈱イーコンテキストについては、設立第 1 期の投資局面であり、当初の計画においては事業対象を㈱ローソンのみとしておりました。しかし、その後の計画変更により事業対象を他のコンビニエンスストアやガソリンスタンド等のチェーン店へ拡大することに伴い、接続開発の投資が増大し、結果 74 百万円の投資損失を計上致しました。なお、今後同社につきましては、本年秋口から回収局面に入る予定であります。

㈱ギフトポートについては、設立第 1 期での事業投資により 11 百万円の投資損失を計上致しました。

連結子会社については、当初 48 百万円の経常黒字予想をしておりましたが、事業拡大予想による人件費、システム等の先行投資により、ゼロ予想に修正致しました。

(3) 参考；前期の実績（平成 11 年 7 月 1 日～平成 12 年 6 月 30 日）

（単位：百万円）

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
通 期 (7 / 1 ~ 6 / 3 0)	2,197	85	36

以上